

## i-Construction 推進コンソーシアム 第3回 企画委員会

### 議事概要

日時：平成 30 年 6 月 1 日（金）13 時～14 時 30 分

場所：国土交通省 特別会議室 央合同庁舎 3号館 1 1階 特別会議室

出席：安宅委員、仮屋菌委員、小宮山委員、鈴木委員、建山委員（50 音順）

事務局より、i-Construction の推進状況（資料 1）、i-Construction 推進に向けたロードマップ（案）（資料 2）、i-Construction の普及・促進（資料 3）、ICT 施工に関する基準類の策定・改定一覧（参考資料）について、日本建設業連合会より寄付講座について説明し、意見交換を行った。

（主な意見）

【i-Construction の推進状況、i-Construction 推進に向けたロードマップ（案）について】

- ・ i-Construction は生産性向上、働き方改革の観点で国土交通省の一丁目一番地の政策であると認識。ICT 技術の活用により、高齢者や女性の方々に門戸が開かれることが働き方改革の観点で重要。
- ・ 現場で動いていることを実感している。また、運用についても柔軟な対応ができていると認識。
- ・ ICT 施工の導入効果が p6 にあるが、人員削減や工期短縮など、目的を決めて計画的に進める必要がある。ICT 施工導入効果の根拠となるデータをできるだけ示してほしい。
- ・ 技術者の業務が管理業務中心となり、現場に出る機会が減少している。管理業務を ICT に委ね、技術者が新技術導入検討などの業務に携われる時間をつくり出すことが必要であり、そのためにも ICT による管理業務の簡素化や書類の削減は重要。
- ・ 安全について、労働災害は改善しつつあるが、建設業での事故死亡者は全産業の中で 1/3 を占めるなど依然大きな問題。ICT の活用やプレキャスト化など現場業務削減に伴う間接的な事故の減少や、ICT による事故の感知など直接的な事故削減に取り組むことが必要。
- ・ 「ムリ・ムダ」など、工程別の進捗の可視化をしていかないと、急激に減っていく労働力を補完する可視化に間に合わない。可視化してオープンにすることで市場のベクトルも向き、良くなると考える。
- ・ ICT を進めると平行して、賃金を労働時間ベースからバリューベースの課金へ変更していくことを検討しないと、やせ細りになる。
- ・ 社会実装を進めるにあたり、データの権利について問題提起したい。データをプラットフォームで活用する際、例えばデータを加工して組み合わせた際の権利配分や、プライバシーの観点などの課題があるため、権利に関する検討を行い、ガイドライン整備などを進めてほしい。
- ・ 新技術の導入促進について、インフラ点検ロボットの分野は世界的にも同時進行で進んでおり、日本のベンチャーの競争力の観点でも土木・建築における実装は重要で、強く期待している。
- ・ 管理業務の ICT 化について、RegTech (Regulation Technology) という話で、書類の提出のノウハウ等は世界的にもホットなベンチャーの分野として定義されている。ベンチャーによる価値提供により、プロセスの効率化によって、現場のみならず産業界全体の業務効率化につながる。
- ・ 現在すべての領域で人材が足りていない。人材をどのように調達し育成するのかを考えていく必要。
- ・ 大量のデータをリアルタイムに引き出せてそのまま使えることが重要。データや AI の分野で、日本の建設分野におけるコアとなる分野について、2～3 個選んで徹底的に作り込んでいくことが必要。
- ・ ロードマップ（案）については意見無し。

#### 【寄付講座について】

- ・ 産官学民の連携はその具体化が常に課題となっており、国交省にも協力いただき、オープンに進めて、建設分野をよく理解し IT を実装できる人材を育てていただきたい。

#### 【i-Construction の普及・促進について】

- ・ ベンチャーのコミュニティでは、i-Construction の認知度が低い。そのため、i-Construction 大賞において、ベンチャーテクノロジー企業についても表彰対象に取り上げていただきたい。
- ・ 講座の話にも繋がるが、「数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム」が東大含む 6 大学で進められている。彼らは領域データを求めており、これらのプログラムに i-Construction データを投入してみてもどうか。
- ・ ICT について、現場の方々は言葉が通じず、連携に時間がかかる。
- ・ グローバルな視点が不足。建設分野で働く海外の方が増えており、言語の問題を ICT により改善することで、やりがいの向上につながる。
- ・ 音声認識、翻訳の進化が相当進んでおり、ICT の活用が期待できる。
- ・ i-Construction は地方の中小企業でもユニークな取り組みが行われている。情報共有するなど、注目してほしい。

#### 【その他】

- ・ 調達の問題については、内閣府の科学技術イノベーション会議でも政府がベンチャーから調達できるような方向性を示そうとしている。
- ・ 法律は本来社会情勢と合わなければ改正すべき。あるいは、通達等に対応していくなど、知恵を絞り対策を考えていただきたい。

以上